

農業法人列伝(11)

3つの法人の有機的な連携

新潟市(有)フジタファーム
藤田毅さん(49歳)

(有)フジタファームが生産する高品質乳を「なんとか活用する手はないか」と長年試行錯誤してきた末、別個にイタリアン・ジェラートを製造販売する(有)レガーロを設立した。その店舗の窓から指さした先に見えるのは女優日色ともゑさんが田植えした水田。立川談志師匠ともなると今年で11年目の米づくりを迎えた。こうした農業体験を含む土地利用型部門をカバーするのは(有)米工房いわむろで、藤田さんは以上3法人の経営に携わっている。これでは目の回るような忙しさと思われるが、意外なほど余裕十分。3つを有機的に連携させ、なおかつ目指すところが明瞭然としているからであろうか。フジタファームは搾乳牛70頭に育成牛30頭の飼養規模。大半がホルスタインだが、乳たんぱくに着目し、ジャージーも5頭ほど保有しているが、「ジェラートにはやはりホルスの方が適しているようだ」。1頭当たりで年間搾乳量は平均で8500*と牛にあまり無理をさせない方針が貫かれている。

リアに赴いた。研究熱心なのは夫妻ともども。鳴り物入りでジェラート店がオープンしたと聞けば、毅さん自身もわざわざ上京し、渋谷、表参道等での試食を重ねている。これが奏功して夏場の最盛期には1日のレジ通過客数が2000人を数えるが、平日でも昼休みとなると若い女性を中心に客は引きも切らず、減農薬栽培の紫イモや米工房いわむろ産のお米をフレーバーとしたジェラートを頼張る。



「レガーロ」前にて



藤田毅さん

レガーロの代表は妻・昌恵さん(49)。社名はイタリア語で「贈り物」を意味する。主力商品は言うまでもなくジェラートで売上の95%を占める。これにソフトクリームとイタリアン・コーヒー等も販売されており、こうしたコンセプトが形づくられるまでに昌恵さんは幾度かイタ

米工房いわむろ(安倍公男代表)では今年コシヒカリ20%、モチ米7%、その他3%、さらにはホール・クロップ・サイレージ(WCS)20%等が作付けられている。2005年度は若干の黒字に持ち直したが、それ以前は2期連続での赤字であった。生産コスト低減等に努力しているが、肝心なのは「売ること」である。

米価の長期低落傾向が止まない中で、今でも5*3000円で売れるのは長年にわたって顧客との間に確固たる信頼関係が築かれてきたからに他ならないが、それが揺らぎつつあることは否めない。黒米をプレゼントするなど、常連へのサービスはそれとして、もう一段強くアピールするには「何をすべきか」。様々な角度から検討してみた。具体的な構想として浮かんだのは「初でサイロに貯蔵し通年で品質を維持する」

という方法。「コンバインは無くともサイロさえあれば...」。これが米工房いわむろの将来方向を決定づけるフレーズになりそうだ。

また生産調整で作付けてきたWCSについてはデントコーンに切り替えることも考えている。レガロが要求する高品質乳を供給していくためには「WCSに限界を見る」からだ。加えて飼料の自給体制は取引先に大きな魅力、この上ない安全・安心への約束と映ることも事実だ。いずれ将来、こうした高品質乳でフレッシュ・チーズを製造することも視野に入れており、その第一歩がデントコーンへの転換である。

県農業法人協会の副会長として「新潟でも経営の法人化が急速に進んでいることは好ましく受け止めているし、期待も膨らむ」。しかし「せっかく法人化しても経営の中身が変わらないのはその“でき方”に問題があるからなのだろうか」。法人経営に対する「公的支援、メリットをアテにするだけの法人化では長続きするとは思えない」。法人組織に加入して「何を求めるかはそれぞれの課題であり、先人たちからどん欲に学び取るような積極的な姿勢であって欲しい」と機会あるごとに呼びかけている。

法人協会ニュース

運営委員会が開催されました

6月8日、第20回運営委員会が開催されました。17年度の事業報告・同決算などをはじめ、いわゆる「貸し剥がし」の調査結果、「都市農業の振興に関する提言」、「外国人技能実習制度の受入枠拡大についての提言」、「農地流動化と面的集積を進めるための要請」などについて議論されました。

また協会組織化から10周年を迎える今年に発信する「新たなビジョン」の策定について執行部より提案があった他、組織のあり方についての討議など盛りだくさんの内容で活発なご発言を頂きました。議事の要旨などにつきましては後日公開させていただきます。

「アグリフードEXPO」 意向調査ご回答のお願い

来る8月に開催される、農林漁業金融公庫主催の「アグリフードEXPO」。当協会も支援しているこの商談展示会につきまして、皆様に意向調査をFAXにてお送りいたしております。何かとFAXばかりで恐縮なのですが、ご記入の上ご返信を

頂ければ幸いです。何とぞよろしくお願い申し上げます。

農林物資規格調査会部会（生産情報公表加工食品等）の開催及び傍聴の募集について

日時：平成18年6月30日（金）14時～

場所：経済産業省別館各省共用会議室

議題：（1）生産情報公表加工食品（豆腐、こんにゃく）の日本農林規格の制定について
（2）加工食品品質表示基準の一部改正に伴うトマト加工食品品質表示基準等の一部改正について

傍聴等の応募方法：

- ・部会の傍聴又は意見の陳述を希望する方は、郵便又はFAXにて、住所、氏名、年齢、職業、電話番号及びFAX番号（FAXがある場合）に併せて、傍聴又は意見陳述のいずれを希望するのかを明記の上、以下の締切までに応募してください。電話での受付は行いませんので御了承願います。また、傍聴の応募は1人1回に限らせていただきます。
- ・傍聴等の可否について当方より連絡いたしますので、必ず、返信用はがき又は返信用封筒を同封（往復はがきでの応募も可）するか、又はFAX番号を記載願います。

申込先：〒100-8950

東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省 消費・安全局 表示・規格課

表示・規格専門官（生産情報公表加工食品担当）宛

FAX：03-3502-0594

締切：平成18年6月22日（木）17時

傍聴募集人数：35人程度

（応募者多数の場合は抽選を行い、傍聴可能な方に傍聴券をお送りします。1枚につき1人傍聴可能です。）

【問い合わせ先】

農林水産省 消費・安全局 表示・規格課

担当：表示・規格専門官（本部、田中）

本紙に関するお問合せは下記までお願いします。

社団法人日本農業法人協会

(HP:<http://www.hojin.or.jp/>)

TEL：03-5156-0365 / FAX：03-5156-0366

MAIL：juku@hojin.or.jp

© 日本農業法人協会 2006

本紙掲載記事の無断転載を禁じます。